

気働き」で

める

OBORU

高野登

流の男は

の仕事と生き方



かんき出版

き ばたら  
気働きとは？ (著者による定義)

全方位的に心のアンテナが働く様子を指す。  
厳しさ、しなり強さ、やさしさ、ユーモアなど、  
その時々に応じて臨機応変に周りの心に寄り添い包み込む、  
大人が持つべき感性のこと。

リッツ・カールトンと

世界のホテルで出会った

“本物のエリート”



●札幌の印刷会社社長が名刺に込めた熱い思い

さて、私が使っている名刺はペットボトルの再生紙でできています。さらにそこに点字も打ってあります。数年前に、札幌に本社のある丸吉日新堂印刷の社長、阿部晋也さんと出会ってからずっと作っていたいただいています。

阿部さんと出会ってから、名刺に対する見方、認識が大きく変わりました。特に、作ってくれる人への気持ち、素材への思いが変わってきたのです。

最初の出会いするとき、阿部さんがおっしゃった言葉が印象的でした。

「名刺の仕事はやりたくない。これが印刷会社の本音です。儲からないし、正直言つて名刺はついでの仕事でした。外注先を急がせることも多いですし。でも考えてみたんです。名刺は人が出会ったとき、必ず最初に使うもの。それなのに粗末に扱われていくのです。だったら本腰をいれて自分でやろうと決めたんです」

そこから阿部さんの名刺に対するチャレンジが始まりました。ペットボトル再生材、バナナの茎の皮、トウモロコシの皮、帆布などこれまでゴミとして処理されていたも



のを素材として、名刺に新たな命を吹き込んでいったのです。

一貫して変わらないのは、名刺は人が一対一で向き合うときに、最初に相手に届けるメッセージであるということ。阿部さんが手がける名刺には、その思いが丁寧に込められているのです。

丸吉日新堂印刷に名刺を依頼するようになってから、私の名刺に対する認識も大きく変わりました。これほど、ピンポイントで相手にメッセージを届けられることができるものはほかにない。初対面の、その瞬間からです。

名刺交換をした相手からは、よくこう尋ねられます。

「ペットボトルの再生紙ですか、珍しいですね。しかも点字の名刺は初めて見ました。なぜ点字付きなのですか」

私にとって名刺交換とは、目の前の相手と向き合い、価値観を共有できるかどうかを測る一つのきっかけにもなるのです。

翻って私たちは、毎日席を同じくする会社の仲間と、一対一できちんと向き合っているのでしょうか。一人ひとりをかけがえのない「個」として向き合っているでしょ